

【学会・研修会】

●令和4年度

| 参加学会・研修会名 | 筆頭演者 | 発表内容 |
|--------------------|------|---|
| 第35回中国ブロック理学療法学術大会 | 三石理知 | <p>2022年9月3日～9月4日にかけてオンラインにて開催された第35回中国ブロック理学療法学術大会で「視床網様核障害に対する理学療法の検討」という演題を発表しました。</p> <p>発表内容は、初期評価時には注意を制御することが難しく入力困難で動作ができなかった視床網様核障害の症例に対し、視床網様核障害の影響を考慮し、視覚（ジェスチャー）、聴覚（言語での指示入力）、体性感覚（動作誘導）の中で、その都度症例にとって入力しやすい感覚刺激を動作ごとに模索・試行し、感覚刺激を限定した後にそれを反復して感覚を入力していく介入方法をとった結果、感覚入力ができ動作につながりADL能力が向上したという報告です。</p> <p>この症例報告の結果は、視床網様核が障害された患者様・利用者様における理学療法介入方法の一助となると期待できます。</p> |
| 第35回中国ブロック理学療法学術大会 | 陶山清吾 | <p>2022年9月3日～9月4日にかけてオンラインにて開催された第35回中国ブロック理学療法学術大会で「固縮を呈した短縮筋に廃用症候群へのストレッチ効果を示した文献を適応して同等の効果が得られた症例」という演題を発表しました。</p> <p>発表内容は、筋緊張が固縮を呈した場合でも廃用性筋萎縮が生じ、筋肉の長さが短くなって関節可動域制限を引き起こす事が考えられる為、筋緊張が固縮を呈した場合でも不動による関節可動域制限は治療にて改善可能という事が示唆された。という内容です。</p> <p>この研究成果は、患者様、利用者様の治療の適応エビデンスを広げる事に繋がる事が期待されます。</p> |
| 第30回日本慢性期医療学会 | 濱田洋数 | <p>2022年11月17日～11月18日にかけて国立京都国際会館にて開催された第30回日本慢性期医療学会で「“興味”のある動画視聴にて疼痛を軽減したことで関節可動域制限改善、歩行能力向上を認めた1症例」という演題を発表しました。</p> <p>発表内容は、ストレッチの伸張痛が関節可動域制限の治療の障害となった患者様に対して、患者様の“興味”のある動画を見ながらストレッチをすると、脳内で疼痛の抑止が強くなり、伸張痛は軽減され、関節可動域の拡大と歩行能力の向上を認めたというものです。</p> <p>この研究成果は、患者様、利用者様のリハビリで生じる苦痛を和らげる一つの方法になる可能性が期待されます。</p> |

●令和5年度

| | | |
|--------------------|------|--|
| 第12回日本理学療法教育学会学術大会 | 三石理知 | <p>2023年12月9日～12月10日にかけて大宮ソニックシティビルにて開催された第12回日本理学療法教育学会学術大会で「学生の理解度向上と心理的負担軽減を目的としたペア型臨床実習指導の経験」という演題を発表しました。</p> <p>発表内容は、当院で実践している臨床実習指導について紹介したものです。学生同士ペアを組んで互いに積極的なディスカッションを促し、それを通じて生じた疑問について指導者・大学教員で解決していき、さらなるディスカッションへ繋げていくというサイクルを組むことで理解度向上・心理的負担軽減が図れたという内容でした。</p> <p>発表時には、全国の臨床実習指導者・養成校教員の方々と活発な意見交換ができ、この報告を参考にするという意見もありました。この事例報告は、臨床実習での指導方法の一助になると考えます。</p> |
|--------------------|------|--|

●令和6年度

